

---

# 大海賊時代を変える漂流者

漂流者

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

大海賊時代を変える漂流者

### 【Nコード】

N8086Y

### 【作者名】

漂流者

### 【あらすじ】

家で普通に暮らしていた主人公。だがある日冷蔵庫を開けたらグルグル模様の変なバナナを発見した。それを食べて何事も無かったと思いきや、次の日起きたら海の中に居た。上は青空。周りには海、海、海。島が無い為そのまま漂流されてしまう。「これからどうすれば良いんだよおお！！」by主人公

## 1 流れ着いた場所（前書き）

作者名については気にしないで下さい。

## 1 流れ着いた場所

カリカリ・・・ペラッ

ん？誰だ？俺は今、数学の勉強中だ。ちょっと待て。

く15分経過く

カリカリ・・・パターン。

ふう。宿題が終わったから良いぞ？

俺は、わたなべ渡部 そうた蒼太。中学三年だ。俺の両親は今両方とも出張中だから居ないけどな。料理とか家事は得意だから困る事は無い。金は置いてくれたし。家計も安定中。

で、今台所に居るのだが。これは・・・？

冷蔵庫に何故か買っていないグルグル模様のバナナを発見。これって、今世界中で大ヒットしている海洋冒険の「ONE PIECE」にある“悪魔の実”だよな？超似てるし。どうやって入れたんだ？まあ、それは良いとして後で食べてみれば良い。今はオムレツを作りたい。

ふう。できた。なんか変なメニューだな今日は。

オムレツにヨーグルトに悪魔の実らしき物。

誰から見ても変だと思われるな。特に一番最後のは。

「いただきます。」



その方向だから良いけど。マジでもの凄いスピードで流されてるう  
ううー!!ぶつかるうううー!!!!

え!?!ちよつと待った!!あの船首は!!まさか!ルフィのじいち  
ゃん?まさか!。そんな訳無い。

「あ・・・ぶつかるううううううー!!!!!!!!」

海兵「何事・・・ええ!?!漂流者!?!おい!浮き輪!」

海兵「おりゃあ!」

バチャ。

あ、浮き輪。これに掴まれて意味か。  
ガシッ

海兵「手を離すなよ。引くから。」

「OK。」

海兵「よっ。」

どンドン軍艦に近づく。

海兵「よっと!」

海兵「大丈夫か?ほらタオル。」

「どうも。」

ああ。これが夢小説とかに出て来る“トリップ”ってやつか。なん  
で俺がこんなのに体験してるんだよ。まあ、テストが今日だから良  
かったけど。

ガ「なんじゃ？」

「あ、もしや。」

ガ「うん？」

「ルフィのじいちゃん？」

ガ「ルフィを知ってるのか!？」

「あ、まあ。」

海兵「“麦わら”のルフィですか？それくらい知ってますよ。億越  
えルーキーなんですから。」

ガ「そうか。でお前さんは？」

「俺は渡部 蒼大。今から質問しても良いか？」

ガ「うん？いいぞ。」

「ここは何処だ？」

ガ「ここは海軍本部の近海じゃ。今帰るところじゃ。続きは着いた  
らで良いかの？」

「分かった。」

着いた場所が軍艦かよ。夢であって欲しい。

あと、これを考えたら、あの実は本当かもな。



## 1 流れ着いた場所（後書き）

感想など待ってます。

## 2 主人公設定

【名前】

わたなべ  
渡部 蒼大 そつた

【性別】

男

【出身地】

東京都練馬区

【誕生日】

2月29日

【身長】

184cm

【部活】

水泳部

【能力】

自然系ウミウミの実。

何故か家にあつた悪魔の実を食べて能力者になった。  
これを食べってから海人間となったが、カナズチにはならなかった。

【その他】

- ・ 自分で何かを作るのは得意。
- ・ 狙撃が得意。
- ・ 元の世界の技術はほとんど覚えていて造ることも可能。
- ・ 体質が他の人と違う。

主人公は海軍にも海賊にも政府にも革命軍にも入りません。

大体、革命軍 + 海軍 ÷ 2 〃 主人公が行っている事。

主人公は大海賊時代を終わらせる事を目標にしています。

## 2 主人公設定（後書き）

こんな感じの主人公。

### 3 事情聴取

「ある部屋」

??「私はボガードと言う。さっきの部隊の副官だ。」

「はあ。」

コンコンッ ガチャ。ゾロゾロ

・・・・・・・・・・・・・・・・

なんか海兵がゾロゾロ入って来るんだけど・・・。

あ・・・巨人族だー！

ガ「ふむ。全員集まったから初めていいぞ?」

初めて生で見たー！！でけー！

ボ「・・・・・・・・どうした?」

「あ、いや、なんでもないです。」

ボ「そうか。名前は?」

「渡部 蒼大」

ボ「渡部そ・・・?」

「蒼大」

ボ「変わった名前だな。」

「普通なんだけど。（違う世界だもんなー。）」

ボ「何処の海出身だ？」

「・・・・・・・・・・。」

ガ「どうした？」バリバリ

「煎餅食いながら喋んじゃねえ。」

ガ「口悪いのー。」

「悪かったな。今はちよつとな。」

ボ「（機嫌が悪いのか。）で、どこだ。」

「どこって何だよ。」

一応聞いてみる。

ボ「東の海・西の海・北の海・南の海・偉大なる航路の5つのうちどれかだ。」

ちよつとふざけてみよう！

「何それ。東シナ海？大西洋？南シナ海？北極海？後、偉大なる航路って何？」

ボ「貴様、ふざけてるのか？」

??「ちよつと待つて！」

セ「なんだ？日本研究班員。」

研「なんでその単語知ってるの？！」

「ごめん、ごめん。知ってるよ。でも、うーん。」

研「ええ！？スルー！？……後で聞きます。」

セ「分かった。」

ボ「何処だ。」

「うーん。東の海？」

ボ「なぜ疑問系？」

「いいから次！」

ボ「……年齢は？」

「14歳。」

ボ「何故漂流していた？」

「あ、ちよつと待った。さっきの質問やっぱり答えるよ。」

研「あ、はい。」

「自己紹介からするよ。」

ボ「ああ。」

「俺は渡部 蒼大。此処とは違う世界から来ました！俺が住んでた所は日本。日本の東京都練馬区に住んでいます。いつもは学校に通ってます。部活は水泳部。特技は狙撃と水泳と潜水？」

研「ええ？！日本から来たんですか！？」

「うん。だ……あ、あれって本物なの？」

研「え？」

「俺は昨日、冷蔵庫に悪魔の実らしき物があってそれを食べて寝て起きたら今の状況だから。」

研「……………嘘言ってますか？」

「俺、パソコンと携帯電話スマホと筆記用具とか持ってるぞ？」

ガラガラ。

不思議バツクからどんどん出てくる出てくる。

研「本物だあ。」



ボ「てことは、渡部は異世界から来た。で良いんですか？」

ガ「そうなるの。」ボリボリ

「・・・・・・・・・・・・・・・・ふ。」

ボ「ふ？」

「ふえつくし！・・・・・・・・うう。」

海兵「！？・・・・・・・・ビックリしたー。」

「ごめん。風邪が治ってきてるんだけどさ。」

海兵「治って来てるかよ。」

「ははは・・・・・・・・はあ。笑えねえ。」

ボ「・・・・・・・・日本について話してくれないか？」

「日本は47都道府県に分かれてる。あと、列島だから一応島国。先進国で治安は世界一。軍隊を持たないけど自衛隊がある。けど外国からは軍に見えてる。とか？」

研「ええ！？治安は世界一なんですか？！」

「うん。そんな感じ。」

ボ「そうか。」

ガ「センゴク！こいつを海兵にしたい！」

「子供か！？後、入隊しねーから！！！！！！」

ガ「なんでじゃー！」

「なんにも入らねーよ！でも情報通だから。」

ガ「じゃあ、海軍が世話するから情報くれよ！」

「OK！」

ここで世話になるのか。まあ、いいや。

### 3 事情聴取（後書き）

次回はこの続きです。まだ続きます。

## 4 能力発動

??「おれはオニグモ。その悪魔の実の能力は分かるのか？」

「さあ？」

ガ「意識してみい。」

「ああ。」

目を瞑る。悪魔の実の能力を考えてみる。

ガ「しかし、おかしいと思わんか？」

オ「？」

ガ「漂流って事は、海水に浸かってるって事じゃろ？なんでカナズチではないんじゃない？」

セ「確かに。」

分かったぞ！海だ！よし、空間に水があることを思い浮かべて・・・

オ「何！？」

目を開けると・・・空間に水が。どうやら海水じゃなくても水であれば良いらしい。

モ「自然系ロギアか……。」

オ「ただの自然系では無いぞこれは。」

モ「ああ。」

「何かは、分かった。」

モ「なんだ？」

「自然系ウミウミの実。海人間だな。あー、俺動物系が良かったー  
！！」

モ「良いじゃないのか？」

「まあ、多分体が海だから海水に浸かっても変わらないからだと思  
う。でも良いか！」

モ「？」

「俺、水泳部だったからさ。潜水も目開けてもこれで大丈夫だあ！  
よっしゃあ！！」

ガ「ぶわっはっはっは！息も続くぞ！」

「よっしゃあ！」

海兵「さっきと全然機嫌が違う……。」

海兵「まあ、良いんじゃないの？」

海兵「なんでだよ。」

海兵「だって、俺ら海軍があの子の世話をするからよー、機嫌が悪くて能力でやられたらどうするんだよ。」

海兵「あー！そっか！」

海兵「だろ？」

海兵「ああ。」

ガ「ふむ、早速行くか！」

「・・・・・・何処に。」

ガ「鍛錬場じゃ！」

「・・・・・・！！！」

ガ「行くk「明日にしてよ。今日は寝る。」・・・・。」

海兵「寝るのかよー！！」

「h・・・・あ・・部屋どこだー・・・・・・？」

モ「・・・・・・付いて来い。」

「OK。」

才「待て、俺も行く。」

ダ「じゃあ、俺も。」

スト「.....」

無言！？なんか喋れよー！！・・・あ、そうだこの人いつも無言だ・・・。

って、中将多くな！？中将しか居ないけど。

ガ「ぶわっはっはっは！行って来い！」

あんたは行かないのか！！

も「置いてくぞ。」

「え？こんなに居るから……剃か。」

モ「そうだ。」

「え？まさか……階段！？」

「階段しかないだろ。」

[illegible]





#### 4 能力発動（後書き）

階段が苦手な主人公。

作者は逆です。東京タワーの階段を上りきった事が一回あります！

それでは、それでは。

## 5 背負う

あああああああああ．．．．．魂が抜けそう．．．。

モ「．．．．．」

オ「モモンガ、どうした？」

いきなりしゃがむモモンガ。

モ「背負ってやる。ほら、乗れ。」

「ふえ？」

いきなりだったから変な声が出てしまったではないか！このヤロ  
く！

モ「背中に乗れ。」

え？それってつまり、俺をモモンガがおんぶするって事？まさかー！

モ「早くしろ。」

現実だったあああああ！！！！！！！！！

ドー「何固まってる。ほれ！」

どんっ！

「うわっ！」

モ「ふう。やっと乗ったか。すまないドーベルマン。」

ドー「お安い御用だ。」

「押すなよ！」

もっ、中將らは階段を上り始めてます。

ドー「乗らないからだろ。言ったら避けるだろ？」

「だって……よ。」

ドー「いいからそのまま背負われてろ。」

「うう……。」

うん？この髪長くない？

「てか、髪長いなー。」

モ「髪は大事にするもんだ。」

「切らないのか？」

モ「別にこのままで良い。」

「あーそう。・・・まだ？」

モ「少なくとも10分はな。」

あー、なんか眠くなってきた・・・。

モ「・・・・。蒼大？」

「ZZZZZZZZZZ」

オ「寝てるぞ。」

モ「寝てるのか。」

ドー「モモンガの肩を枕にして髪を布団代わりか？」

ダ「そうだな。暖かそうだ。」

モ「羨ましいと思うなら今度頼んだら良いだろ。」

ダ「髪が長くないから無理だ。」

モ「人獣型になれば良いだろ。」

ダ「そうか。」

モ「部屋に連れて行くか。」

ダ「モモンガの部屋で良いだろ。」

モ「いや、それは駄目だ。」

ドー「まあ、蒼大は大事にしないと。」

モ「そうだな。」

スト「……………」

ドー「なんか喋ったらどうだ。蒼大もそう言っ<sup>こいつ</sup>てたぞ。」

スト「……………喋る事が無いから喋っていない。」

オ「……………もっと明るくなれよ。」

モ「一番地味では?」

オ「そうだな。」

スト「酷いな。」

オ「お前キャラ変えろ。」

スト「無理だ」

オ「あつぞ。」

モ「着いたか。」

オ「蒼大は俺らと同じ階なんだな。」

ガチャ

モ「蒼大の世話は中将以下が担当だ。」

オ「だからってな。同じくらいの部屋だよな。」

ドー「だな。」

モ「手伝ってくれ。」

オ「ダルメシアンは足を持て。靴も脱がせておけ。」

ドー「ダルメシアン、お前意外と器用なんだな。」

ダ「うるさい。」

と言つて靴を脱がす。

モ「ここだな。同じ造りだな」

ガチャ

寝室を開けるモモンガ。

中将らは蒼大をベットに寝かせて布団を掛けた。そして、部屋から

出て各自の部屋に向かう。

ちなみに、この階の部屋は巨人族以外の中将のみしか居ない。だが  
ガープとつるは上の階に居る。この階の造りは、

資料室

休憩場所

空き部屋

↓

カイゼルヒゲ    オニグモ    ヤマカジ    ストロベリ

上下階段

雑談・色々部屋

モモンガ

コーミル    ドーベルマン    蒼大    ダルメシアン

こうなっている。

蒼大は完璧に守られている。

ジョナサンは拒否している（と言う設定）為造られていないです。

## 5 背負う（後書き）

図が少しずれてますが、ぴったりくっつける事ができないのでご了承ください。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8086y/>

---

大海賊時代を変える漂流者

2011年11月26日17時54分発行